

さぬき市都市計画審議会（第10回） 会議要旨

- 1 日 時 令和2年10月16日（金） 15:00～17:25
- 2 場 所 さぬき市役所本庁301・302会議室
- 3 出席者 【委員】 梶山博司 紀伊雅敦 松原俊幸 本間立治
尾崎 勝 佐藤恭一 間嶋三郎 岩崎治樹
中村聖二 真部 茂 松岡裕明 三宅孝憲
廣瀬 治 頼富 勉 木村イツ子 筒井美佐子
池添浩子
- 【事務局】 堀建設経済部長 満濃都市整備課主幹
富田同課課長補佐 津村同課副主幹
ランドブレイン株式会社（支援業務受託者）3名
- 欠席者 【委員】 なし
- 傍聴者 1名
- 4 議 題 (1) 都市計画マスタープランの地域別構想（案）について
- 5 会議の内容

発言者	意見概要
事務局	それでは、さぬき市都市計画審議会第10回会議の開会に先立ち、さぬき市建設経済部長の堀から、御挨拶を申し上げます。
市長	(堀部長挨拶)
事務局	それでは、開会に当たり、梶山会長から、挨拶をお願いします。
会長	(梶山会長挨拶)
事務局	以降の進行は、審議会条例第6条第1項の規定に基づき会長が会議の議長となりますので、梶山会長をお願いします。
会長	それでは、議事に入る前に、会議の公開・非公開について諮ります。さぬき市都市計画審議会運営規則第6条には、「会議は、原則公開とする。ただし、別に定める場合は、非公開とする。」とあり、「さぬき市都市計画審議会傍聴要領」第2条第2項に、会議に諮り非公開とすることができるとされていますが、本日の議事の内容について、原則どおり公開することとしてよいですか。
委員	異議なし
会長	異議なしと認め、これからの議事は公開とします。ついては、傍聴申請のあった方の傍聴を認めます。
	次に、議事録署名人の指名を行います。審議会運営規則第8条第2項の規定に基づき、議長が2名の議事録署名人を指名することになっています。ついては、「中村委員」と「筒井委員」を指名します。
会長	それでは、次第に沿い、会議を進めます。本日の議事は、「都市計画マスタープ

	<p>ランの地域別構想について」です。このことについて、事務局は説明してください。</p>
事務局	<p>(都市計画マスタープランの地域別構想について、資料に基づき説明した。)</p>
会長	<p>次第の項目ごとに分けて検討していきます。まずは、①「地域区分の考え方」について、質問・意見はありますか。</p>
委員	<p>全体構想の中で、拠点の整理をしていますが、それと地域区分の関係が全くわかりません。全体構想に即しているとのことですが、関連はどのようになっていますか。全体構想に即して地域を考えると書いていますが、唐突に都市計画区域外での話も出てきます。中部地域を都市計画区域以外とひとまとめにし、全く性格が違うためひとくくりにするのは難しいとの説明でしたが、難しいのであれば分けて考えるべきだと思います。</p>
事務局	<p>地域区分の分け方については、現行プランでは、都市計画区域内か外かによって中部と南部を分けていましたが、各集落を見た場合、これまでの南部の区切り方では、コミュニティバスも含めた交通ネットワークの動線等も考え、山間の部分を東西に捉えるよりも、南北の動線等も考慮し、一つにまとめた方が一体的に整理できるのではと考えたところ。また、都市計画区域外のエリアのこともマスタープランで触れるか否かについては、確かに都市計画区域内のことだけでよいとの考えもありますが、さぬき市全体のまちづくりを考えると、今回は、並行して立地適正化計画も検討することもあり、北東部地域も同様に、都市計画区域の内外にかかわらず一緒に、どのようなまちづくりの方向で考えていくかについて触れたものです。特に、これまでの旧町ごとの5つの拠点という考え方を、数としては3拠点として整理しようとしているところ、都市計画区域外とはいえ北東部エリアや南部エリアとの関連性については考える必要があると判断したものです。中部エリアについて、分けた方がよいのではないかの指摘に関し、確かにそうした考え方もありますが、現時点の資料においては、ひとまとめで考えた方がよいのではないかという考えに基づいています。</p>
委員	<p>大きすぎて一言で言うのは難しいとの発言だったので、あえてそのような質問をしました。難しいのであれば、難しくないように考えるべきではないかと思えます。立地適正化計画は、あくまでマスタープランの一部を詳細化していく計画のはずですが、中部地域の山間部に関し、立地適正化計画を立てるために考えなければいけないことは、焦点をぼやかしていくだけのように聞こえたため、あえて質問しました。</p>
委員	<p>私も不思議に思いました。中部の山間部と市街地を一緒にするのであれば、北西部と北東部、東部を全て一緒にしても同じではないですか。さぬき市を3つにしてもよいのではないかと考えていると思います。北側を3つに分けているのであれば、中部の全く特性の違う場所を一緒にして考えることはとても難しいです。大まかに全てをまとめるようにするのか、細かく特性に合わせてわかるのか、町界に分けるのではなくて特性で分けるのであれば、もう少し違う分け方があってもよかったです。特に山間部の中に寒川と長尾を一緒に考えるのは、いくら動線があるとしてもかなり無理があり、そうであれば他の地区も動線があります。少し厳しいのではないですか。</p>

委員	同じですが、そこまで小さくするのではなく、中部地域を都市計画区域の境界線で分けたらよいのではないですか。大きいから、寒川・長尾という細かい分け方ではなく、都市計画区域の内外で分けるとよいのではないかと思います。
事務局	当初の事務局の考え方は、説明したとおりですが、指摘のあったように、都市計画区域ラインで区切ることや、北東部と北西部などの分け方の考え方についても、さぬき市全体として整合性がとれるように改めて検討したいと思います。
会長	地域区分については、これから詳細に検討するということでよいですか。
事務局	意見を踏まえて改めて検討します。
会長	次に、②北西部地域の方針について、質問・意見はありますか。
委員	課題として交通結節点を強化していくなど、問題点をかなり挙げていますが、それに対する土地利用の目指す姿が分かりません。それらに対する対策として何がしたいのかよく分かりません。また、都市機能集約とネットワークの強化が思想のはずですが、都市機能とはどこに掲げているのですか。「土地利用の目指す姿」に都市機能とそれ以外が混在しています。例えば、志度地区にしか教育施設は整備しないため、拠点間の連携のアクセスが重要になるといった論理になると思っていましたが、全体を通して、都市機能として何を持ってくるのか持っていないのか、はっきりしないため、本当に連携軸が必要かどうか分かりません。特に、志度地区については、公園が必要であることや旧市街地で空き家が多いことが問題で、駅周辺の開発については南側だけのことしか記載がなく、これで将来的に都市機能が向上するのか、疑問です。そうしたことへの考えは、今回は反映させないのですか。
事務局	指摘のあったことについて内容に不足する部分もあり、意見の内容を改めて検討します。
委員	このプランの枠組みは、20年前のものに沿っている部分が多く見受けられます。このプランに対し、自分のものとして考えることが難しいと感じました。20年後の世界を考えたとき、それが分からず、なぜだろう考えました。さぬき市は、30年以内に70～80%の確率で大地震が起こるとされています。それが起こると、自分たちのまちは、この形状を保つことはできないと、大部分の人が恐れていると思います。プランの中に「防災」という記載はありますが、起きた後のことは全く書かれていません。考えるべきは、防災ではなく減災だと思います。さぬき市は、香川県内で最も大きな被害が出ます。沿岸部での津波は、家を流してしまい、家を失う人がたくさん出ます。そうした観点で見た場合、備蓄品は足りているのか、どこに逃げるとよいのかについて、全く進んでいないはずで、いつ聞いても、県の発表が遅いなどと濁されています。昨年、門入ダムが決壊したらどうなるのか、下流域では、どの位の水量が襲ってきて、どの程度の被害が出るかについて質問した時、県の発表がないため全く分からないとの返答でした。東日本大震災から8年も経っても、香川県は、防災に対して取り組めていません。そうであれば、さぬき市は、防災・減災の視点で、20年後に向けたマスタープランを作れませんか。それがキャッチフレーズになりませんか。お金をかけて道路を造っても、何かを呼んでくることも確かによいですが、そのようなことは5年ごとに話し合う場があるのであれば、そこで検討し、進めていけばよいと思います。交通において、自動車の自動化が進

	<p>むと、高齢者も免許返納に対する不安もなくなり、人に頼らず自分で移動できるようになります。物流においても、ドローンで運ぶことができれば、道路を使うこともありません。ドローンが発着するスペースがあれば、救援物資を受け取ることができます。香川県知事は、香川県は災害や被害が少ないため、災害時には徳島や高知の援助をすと言っており、さぬき市は、素通りされます。支援が来るまでに時間が掛かります。ヘリコプターの発着スペースがあれば、若しくは東かがわ市と手を組み、輸送手段を確保していれば、自分たち独自で物資を調達することができます。このような最悪のことを考えたまちづくり、20年後、今日産まれた子どもたちが生きていけるまちづくりを考えるのはどうでしょうか。来年の3月までに間に合わないかもしれませんが、今まで考えてきたフレームを少し変えてみる、違う視点からまちの先を考えてみることはできますか。</p>
事務局	<p>次期プランでの地域別構想において、「都市防災」の軸を新たに設けたのは、まさにその視点によるものです。ただ、前回に全体構想に関する検討を終え、今回は地域別構想の検討に進んでおり、今の意見を反映させる場合には、全体構想にも影響があることから、どの程度反映できるかはお答えできませんが、例えば、現時点では「土地利用の目指す姿」から始まり、最後に、新たに設けた「都市防災の目指す姿」という位置づけになっているものを、「都市防災」を先頭に置き、そこからどのような土地利用を考えるかや、都市施設を考えるかという構成にできるかどうかについて、検討したいと思います。</p>
委員	<p>説明のあった内容については、特段意見はありませんが、懸念される事項といえば、道路事情です。警察としては、日頃から交通事情に関して分析しているところ、現状では、道路等整備計画が具体化した際に、事故分析等結果を提供し、密に連携を図っていきたいと考えています。</p>
委員	<p>細かい話になりますが、全体的な思想として、最終的には立地適正化計画を立て、本当に国の支援を受けながら必要なことの整備に結びつけるのであれば、目的や施設を現時点で明確にしておかなければ、支援事業までたどり着けないと危惧するため、県の立場で発言しています。交通結節点の整備に関しても、具体的な整備計画がなければ支援に結びつきません。高松市の計画にも関わりましたが、仏生山地区の病院やバスターミナル等の整備のように具体的な整備のイメージを持っていないと、最終的な目的である立地適正化計画策定にもそぐわないことになってしまうため、現実的な内容を反映していただきたいです。</p>
委員	<p>都市計画のマスタープランと言いつつ都市計画区域外も含んでおり、かなり意欲的なプランを目指していると感じましたが、その意欲をどのように形にするのか、その説明が足りていなかったかもしれません。特に中部地域については、都市計画区域と山間部の両方を含んでいるため、分けた方がよいという意見もありましたが、もし一緒にするのであれば、どのようなつながりがあり、両方とも都市計画の側から考えるポイントがあるためにマスタープランに載せるといった説明があれば、理解も得られるのではないかと思います。現時点の記載では、つながりがどのようなところにあり、どのような連携を目指して中部地域のエリア計画を考えているのか、分かりにくかったです。「土地利用の目指す姿」が各地区に設定されていますが、地区ごとの特徴が少し見えにくい印象です。いくつか具体的な名称もあ</p>

	<p>りますが、施設整備等の具体性がないために特徴が捉えにくいかもしれませんし、具体プランがないのであれば、計画文書としてどのようなところを目指しているのかということ、もう少し整理した方がよいと思います。都市計画区域以外のエリアを含めることで、どのような効果が得られるのか、どのような手立てが都市計画側からあるのかということが書かれてあると、含めた意義が理解されやすいと思います。防災に関しては、どのような対策を考えていくのか、具体的には分かりにくい記載になっていると思います。一方で、立地適正化計画検討会議では、どのエリアを居住誘導区域にするのかを議論する中で、津波浸水等のリスクを勘案して検討しており、その中で幾つか代替案が出されており、既存の市街地をどこまで誘導区域とするかということによって、防災に対する考え方も少し違ってきていると理解しています。土地利用の線引きだけで防災はできるものではなく、現状の市街地に対して、どのような施設整備やソフト対策等を組み合わせて防災を実現するか、トータルで考える必要があるため、色分けだけで判断できるものではないと思っています。どのように補足するか、どのような書き方ができるのかまでは分かりませんが、どのような方向性で防災を各地区で実現しようとしているのかが分かるような形で記載できると、理解しやすいのではなかとと思います。</p>
会長	次に、③北東部地域の方針について、質問・意見はありますか。
委員	記載内容そのものには、特段の意見はありません。全体的にはさぬき市管内はスムーズな道路環境であり、事件事故が発生しても行きやすい環境ですが、志度地区を中心とした交通の危険性の緩和に対する具体的なプランがあれば、その都度、早目に協議していただき、特に、交通課と密に検討していただければと思います。
会長	次に、④東部地域の方針について、質問・意見はありませんか。
委員	津田地区からさぬき南中学校へ行くまでの間には、歩道のない狭いトンネルがあります。土木事務所としては、こうしたことに対する連携が大事ではないかと、中学校とも話をしましたが、地元の方は、このことにあまり着目されていません。道路管理者の視点からすると、この地域では、そのようなことに対する連携について取り上げてよいと思います。また、この地域は観光をメインにとされていますが、その割に、駅周辺の整備については、駐輪場整備など日常生活のことしか書かれていません。
委員	津田エリアは、風光明媚な場所で非常にポテンシャルが高いため、観光としてのポテンシャルを活かすのであれば、どのように観光施設に誘導するのかなど、都市計画側の施設整備等を位置づけてもよいと思いました。このエリアでは、今のところ新たに整備を予定している道路計画はないのですか。
事務局	新設する道路の予定はありません。古くなって交差点が曲がりにくいといった箇所などにおいて、部分的な改良工事の計画があります。
委員	現状を生かして質を上げていくということになると思うので、そうしたイメージが持ちやすいような書き方をすると、理解してもらいやすいと思います。
委員	高松からマルナカ志度店南付近まで開通している道路が、更に津田にまで抜けるという計画を、10年くらい前の小中学校の再編検討時に市の資料として見たことがあります。この津田から志度に抜ける道の構想は、入れておくべきだと思います。

事務局	<p>また、76、78ページの地図中、JR讃岐津田駅の下にある「栗林公園」とあるのは「琴林公園」の字句誤りです。</p> <p>前回の会議でも説明したとおり、整備に向けて国等に要望しているところです。今後のことは依然として不透明ですが、今回のプランにおいては、今回の資料のような表現としています。</p>
委員	<p>この計画は、さぬき市のプランであるため、さぬき市としてはこの道路が欲しいということだと思います。実際の事業を担う県としては、目的が国道渋滞の緩和のためなら国道事業で対応すべきではないかとの考えもあります。また、整備した場合の費用対効果が現実的なものでなければ事業化できません。9月県議会でも質問があり、将来交通量をみながら検討していくということが県の方針です。この計画ベースでさぬき市としてこうした道路がほしいかどうかを決めればよいと思います。</p>
委員	<p>このプランでは、高齢者に優しいまちづくりや障害者も暮らしやすいといった面での建物や市街地環境を整備するという議論だと思いますが、さぬき署管内においては、高齢者の事故や徘徊等が多発しており、事案の半数以上になります。そうしたことが発生した場合にも対応できる人的つながり、ネットワークの構築といった考えも考慮する必要があると思います。</p>
委員	<p>北西部地域、北東部地域、東部地域は、全て海岸線に面していますが、南海トラフ地震が発生すると言われる中で、防災に関しては、排水ポンプを強化するとの記載だけです。排水ポンプだけで南海トラフ地震に対応できるのですか。また、これらの地域の沿岸部は危険であるのに、土地利用を住宅地域にしていますが、防災と安全安心という言葉の意味が合わないと思います。防災を強調するのであれば、住宅地域からは外すべきであり、更に、市は、沿岸部での新築を規制すべきではないでしょうか。沿岸部での新築を放置し、南海トラフ地震が発生すると犠牲になるという分かりきったことを平然と推奨することには疑問があります。排水ポンプだけで人命を確保することはできないと思います。それ以前の対策を市として執っていただきたいです。浸水地域での住宅地指定を解除して、浸水地域以外を住宅地とする施策にするべきだと思います。</p>
事務局	<p>防災について具体的な記載がないということもありますので、今後の対策を担当課と協議して可能なものは追加していきます。建築の規制等について、今のハザードのない区域だけに居住をするのは難しいのではないかと考えています。ある程度の浸水想定区域であっても、そこに住み続けることができるための様々な対策が必要だと考えています。一方、危険な場所での建築を黙認するのではなく、今後、このマスタープランでの防災の方針のほか、具体的な対策を考える際に、市として建築制限がどこまでできるか分かりませんが、配慮しながら考えたいと思います。</p>
委員	<p>南海トラフ地震への対策に関するものも防災の方針の中にも含まれますか。先に話題にあった門入ダムの決壊についても、大雨時よりも地震時を心配しています。地震対策については、どこにも書いてないようです。</p>
事務局	<p>全体構想の「都市防災に関する基本方針」の中に、「地震対策の強化」を掲げています。一方、地域別構想の「都市防災の目指す姿」の中で具体的な方針を掲げる</p>

委員	<p>に当たって、やろうとしていることが見えてこないということですので、再度情報を集めて、担当課と検討します。</p> <p>防災について、地震による家の崩壊等も考慮する必要があると思いますが、都市計画マスタープランに記載するのか、他の計画に記載するのかは別にして、そうしたことを念頭に置いた計画が必要だと思えます。先の委員発言にあった防災対策だけを考えると危険なエリアからは撤退すべきという意見には同意しますが、志度寺周辺のように、市として重要な位置付けのある資産が災害想定エリアにあります。危険な場所と、価値のあるものや経済活動とを、どのように折り合いをつけて考えるかが難しいと思えます。市民がどのようなまちづくりをしたいかという選択の問題になると思いますが、安全等を考えて、居住や都市機能をあえて誘導しないということも一つの選択肢であり、一方で、このエリアは歴史的な蓄積もあり、市として残したいということであれば、リスクを一定程度許容しつつ、それに対してどのような対策がとれるかということが見えるような形にする必要があると思えます。津波の場合、一般的な家は流されてしまいますが、コンクリートなどの堅い建物であれば一定数は残るため、そうしたものを置いて避難できるようにするなど、組み合わせを考えていくことが必要です。</p> <p>また、さぬき市が素通りされてしまうのではという意見がありましたが、高速道路が通り、インターチェンジもいくつかあるため、震災の場合も機能すると思われる、破損した場合でも優先的に復旧する施設であるため、都市機能を上手く誘導し、いざという時には高速道路の機能を十分活用して対応することが分かるようにしていただきたいです。</p>
会長 委員	<p>次に、⑤中部地域の方針について、質問・意見はありませんか。</p> <p>中部地域がエリアの中で一番大きく、さぬき市全体の面積の5割を占めています。多和を除く旧山手3町が中部地域ということで、市民アンケートにおいても最も地区の問題点が多いエリアです。コミュニティバスもありません。山間部では、人口減少による過疎化と高齢化により耕作放棄地が増えています。都市計画は快適なまちづくりのルールとのことですが、最近、国から、都市計画と農林漁業との調整措置についてという通達があったと思えますが、中部地域は、これに基づいてエリアを設定したものでですか。</p>
事務局	<p>今回の設定は、国からの通知に基づいて一体的に設定したというわけではありません。</p>
委員	<p>この地域は広く、高校も中学校も2校あります。山間部は耕作放棄地ばかりで、高齢化が進んでいます。</p>
委員	<p>J Rの駅が2箇所ありますが、この計画案では、駅をあまり重要視しない方向性に見えます。駅を利活用して、住宅や移住、人口を増やす考え方でなければ人口は増えません。行政として駅をどのように見ているのですか。駅という施設を有効活用すべきです。これでは居住しなくてよいという方向になっています。駅があるから利便性がよく、住みやすい空間なはずですが、逆に住宅を排除する内容になっています。人口減少の中で、メリットがある地域を除外して、どのような人口減少の対策ができますか。もっと駅を有効活用し、定住を促進するような内容を記載してほしいです。</p>

事務局	<p>駅には、交通結節点としての役割があると思っています。駅施設については、事業者が整備する部分もある一方、駐輪場や公衆トイレなどについては市が整備しているところです。居住の誘導に関する考え方については、県の区域マスタープランにおいて、田園居住空間は保全、維持を図るという考えもあります。今後の人口をどこに誘導していくかについては、かつての人口増加時代とは少し違う見方で考える必要がありますが、駅のある地域に居住しなくてよいといっているものではありません。利便性の向上を図るエリアに色々な機能を集約していくという考えはありますが、今住んでいるエリアに住まなくてよいという内容でもありません。駅の周辺の活用については、改めて内容を検討します。</p>
委員	<p>県の区域マスタープランにそうしたことが書かれていないため、それに追従しているとの説明だと思いますが、さぬき市としてやるべきことをやっていかないと、人口は減る一方です。さぬき市がどう対応するのか、あるべき姿をどう考えるのか、もっと真剣に考えて欲しいです。さぬき市民が安全安心で、幸せな地域になるかについて、しっかり考えてほしいです。</p>
委員	<p>以前から、公共交通を中心としたまちづくりの必要性を色々なところで述べてきましたが、この会議の場で、その重要性を言っていないことを反省しています。</p> <p>このプランでは、長尾、寒川、大川には出張所があり、既に一定程度の都市機能が集積しており、公共交通から少し離れたところにあります。現状を追認して拠点的な位置付けをしています。これは、自動車の分担率が高いエリアにおいてよく見られる状況であり、この状況をあえて駅周辺に都市機能を移すとしても、逆に強い抵抗が生じると思います。しかし、駅という資源を活かさないのはもったいないです。これからの高齢化社会に対応するためには、公共交通を上手く使ってまちづくりをしていくことが非常に重要だと思います。例えば、今後、このエリアでコミュニティバスを運行する場合には、交通結節点として、駅の近くに鉄道と乗換えができるような何らかの結節施設を設ける、あるいは、高齢化社会に対応した受け皿となるような機能を、駅の近くに設定することも考えられるかもしれません。今すぐ具体的なものを記載することは難しいとしても、既存の公共交通結節点をうまく生かしたまちづくりの視点は入れてもよいと思います。</p>
会長	<p>次に、⑥南部地域の方針について、質問・意見はありますか。</p>
委員	<p>長尾寺から大窪寺に向かう遍路道について、落石などにより通行止めの箇所があります。遍路道の整備等は随分前から行われているはずですが、そうした状況です。最近、サイクリング等自転車での通行が増えていますが、落石のせいでパンクをし、修理している姿をよく見かけます。こうした計画を策定する時、各所管部署と、どのような話をして内容を作成していますか。</p>
事務局	<p>各所管部署との情報交換については、昨年度に、現行プランの進捗状況調査を行い、現行方針に対する達成・未達成や、方針の中止や変更といった今後の方向性などの調査を行い、資料にあるとおり、その回答を検討し反映させた上で、今回の案を作成しています。</p>
委員	<p>所管部署から提出された情報について、これにまとめる前段階の内容は見せてもらえませんか。例えば、千年に一度レベルの河川の氾濫について、県から情報が出</p>

	<p>ていますが、それをさぬき市はまだ取り入れていません。県の情報がさぬき市に届いているにもかかわらず、なぜ、所管部署とのやり取りができていないのか疑問に思います。</p>
委員	<p>県は、浸水想定を技術的に設定して図面化するものであるため、公表することが可能です。一方、市町は、それを基に実際の防災計画に反映させ、避難場所をどうするか等の付加情報を整理しなければ、公表することはできません。県の内容をそのまま公表しても意味がありません。市の地域防災計画は、被害想定と、その対応策などがある程度見越した上でなければ公表できないため、現在、その作業をしているところだと思います。</p>
委員	<p>私自身は多和地区に住んでいないため、正確な実情は分かりませんが、南部地域は、高齢者が多く住んでいるので、その実情を踏まえ、福祉・医療の面で支障がない生活設計ができるような体制を整えることが非常に大切だと思います。</p>
委員	<p>南部地域の遍路道では、歩き遍路が多く見受けられます。また、女体山をはじめ山登りの方も多く、年に数回は遭難事故が発生しています。登山ルートが複数あるため、対応が容易ではないかもしれませんが、立て看板があっても迷う者や登山道と獣道を間違える者もいるため、遭難防止のために立て看板設置と登山道の舗装を強化すべきだと思います。</p>
会長	<p>全体を通して、意見はありますか。</p>
委員	<p>中部地域の田園環境保全地区とされる所に住んでいます。さぬき市は、約20年前に5町が合併して市になりましたが、それまでは、各5町の中で施策が完結するよう、それぞれの町がそれぞれの対策でまちづくりをしてきました。市になり、広い視点で集約等が進むことは当然だと思いますが、一方で、住民は、従前からのしきたりの中で家を建てたり子育てをしたりして、人生の大半を過ごしています。今、少子・高齢化により、田畑は荒れ放題、子どもがいない、住民がいない、核家族化が進んでいるといった状況ですが、それも過渡期です。志度地区はけっこう発展していますが、あまり人がいない地区もあります。人との交流を望んでも、私の住む地区には駅がないため、車で買い物や交流など生活をしています。さぬき市が誕生して50年・100年後には、隣の市と合併し、また同じようなまちづくりを議論することになるのではないかと考えています。非常に否定的な話かもしれませんが、今住んでいる地域や生活を否定することは非常に虚しいです。</p>
委員	<p>このプランでは、ほとんど数値的な内容がありません。さぬき市の財政事情は厳しいと思います。様々な地域から異論が出ないように、全てにおいてバランスよく作られていますが、これがまかり通るとは思えません。一番大事なことは、アバウトなマスタープランではなく、各地区において力を入れていく具体的内容です。例えば、津田の松原は、海水浴場へ行く人口はピーク時には30万人でしたが、去年は10万人程度です。このような津田地区を観光で盛り立てるのであれば、総花的な記載ではなく、もっと具体的に絞り込んでいく必要があるのではないのでしょうか。今後の考え方として、今回提案している内容で策定して終わるつもりなのか、それとももっと綿密に練っていくつもりですか。</p>
事務局	<p>マスタープランは、今年度末で策定し、公表することを目指しています。それ</p>

<p>委員</p>	<p>は、併せて策定する立地適正化計画との歩調を合わせることも関係があります。この会議で意見のあった内容をどれだけ反映できるかについては、直ちには答えられませんが、少なくとも、意見は聴いたが内容はそのままといったことは考えていません。これまでの会議で指摘のあった意見を十分に参考にしながら、最終案を検討したいと考えています。</p> <p>20年後のマスタープランを作っていると思いますが、20年後にはさぬき市の人口が3万2千人の形になる中で、沿岸部では漁師等の生活を守っていくと書いてありますが、現実問題として漁師の数は激減しており、小田では志度と共有で漁業組合をつくっている状況で、どこをどうやって守っていくのでしょうか。そうしたことも知っていなければ将来の計画を考えることはできないと思いますが、一向にそうした具体内容の議論が出てきません。このまま、議論しましたといって策定してよいのでしょうか。さぬき市として、どれを最優先でやっていくか、年度として目標を持ってやっていく必要があります。</p>
<p>委員</p>	<p>防災と減災は、きちんと区分をして考えなければいけません。何が来ても絶対に大丈夫だということで、沿岸部に20、30mほどの防波堤を建てますか、といっても現実的ではありません。地震が起きた時に高知、徳島、愛媛は空港が海沿いにあり、唯一高松空港が山の上にあるため、四国4県の防災拠点として使用すると聞いたことがあります。先の話にも出たヘリポートをさぬき市でも整備するということは、防災ではなく、災害時の食料補給やけが人の搬送等ができるという点で最悪の事態を招かないようにする減災です。ダムの決壊対策にどのくらいの費用をかけるのかといったことはきりがありません。このように区別して議論する必要があります。企業では、事業継続計画というものがあり、それは、どのような災害が起きても事業が止まらないようにするものではなく、被害が起こった際に、どれだけ早く復旧させるかという概念で、色々なネットワークを張り巡らせて、ある期間には同業者に支援を依頼したり、人はどのように動くかということを定めたものです。対策として10mのコンクリート壁を工場の周りに造ることは現実的ではありません。このようなことをしっかり区別して議論する必要があると思います。</p> <p>また、地域がそれに対してどのように向きあうのかが非常に大事です。岡山の真備町では、河川の氾濫は何十年前前には想定されており、高梁川との合流地点に支流をつくる案がありましたが、地域住民が反対して頓挫していました。そうしたところ災害が起きてしまい、すぐに支流の工事に着工したというのが実態のようです。対策に関する方法論については、地域住民の合意形成は、様々な利害が絡むため、なかなか進まないと思いますが、いずれにしても、防災・減災は区分された方がよいと思います。</p> <p>市内の各地域には、それぞれ津田の松原やクアパーク、あじさいロード等がありますが、それらは、どれだけ対外的に、前面に押し出すべきネタなのでしょうか。中途半端ではお金をかけた損になるのではないのでしょうか。各エリアにおいてネタがあることはよくわかりますが、それを突き詰めてよいかどうかという議論はもっとあってもよいのではないのでしょうか。資金を投入する選択と集中です。例えば、あじさいを取り上げるのであれば、さぬき市全域がいっぱいになるところまでやるべきで、どれほどのインパクトがあるかどうかです。ショウブ祭りもきれいですが、日本全国に発信してすごいだらうと言えるほどではありません。中途半端なも</p>

	<p>のをいくつも並べても対外的なインパクトにはなりません。そうしたインパクトに伴うインフラ整備であり、人の流れをつくるためのものという発想にしなければ、たくさんのお金を使っても実効が上がらないということになりかねません。20年という先を見るのであれば、もう少し地区別にどのようなカラーを出すのかということに舵を振って、時間をかけて地道にエリア特性を持つ地域にするという計画をたて、年々取り組んでいくことに意味が出てくると思います。</p>
<p>会 長</p>	<p>活発な質疑応答や意見交換ができ、予定された議事は終わりましたが、その他、事務局から情報提供等がありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>(さぬき市立地適正化計画策定に係る検討の動向について説明した。)</p>
<p>会 長</p>	<p>以上で議事を閉じ、進行を事務局に返します。</p>
<p>事務局</p>	<p>今後の予定について、説明します。前回及び今回での意見などを基に修正し、実現化方策を加えた上で、素案を作成し、いわゆるパブリックコメントを実施します。その後、パブリックコメントの結果などをふまえ、都市計画審議会としての答申を得ることになります。次回の会議日程は、改めてお知らせします。以上で、さぬき市都市計画審議会第10回会議を終わります。</p>